

4.2 NPO 等の有用な資金確保事例の収集・蓄積

以下では、調査対象となった NPO 等 4 団体のそれぞれについて、文献ウェブ調査やヒアリング調査等の結果をもとに、経常収益に占める寄付金や民間助成財団からの資金獲得等の割合や、最近の活動状況、国等の補助金に依存しない経営（資金調達）についての方針・行動、今後の事業活動の方針や方向性を示す。

4.2.1 特定非営利活動法人移動支援 Rera（宮城県）

(1) 年度ごとの経常収益および経常収益源の割合

年度ごとの経常収益を表 4-4 および図 4-5 に示す。2013 年度から寄付金および助成金が大幅に増大している。

表 4-4 特定非営利活動法人移動支援 Rera における収益の変遷

	受取会費	受取寄付金	受取助成金等	事業収益	その他	(単位：円) 経常収益計
2015年度	263,000	11,213,919	28,710,000	5,900,800	146,605	46,234,324
2014年度	194,000	15,814,872	16,280,000	5,068,450	5,690	37,363,012
2013年度	340,000	26,943,826	22,420,000	3,717,390	219,309	53,640,525
2012年度	29,000	962,000	0	0	0	991,000

出典) 各年度の活動計算書をもとに作成

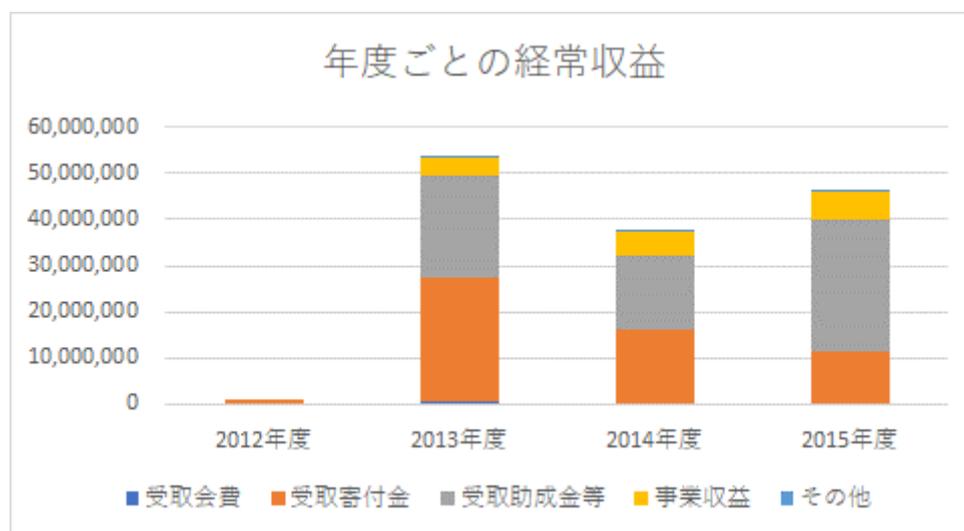


図 4-5 年度ごとの経常収益（特定非営利活動法人移動支援 Rera）

出典) 各年度の活動計算書をもとに作成

また、年度ごとの経常収益源の割合を図 4-6 に示す。寄付金の割合が高く、2013～2014 年度には 4～5 割を占めている。

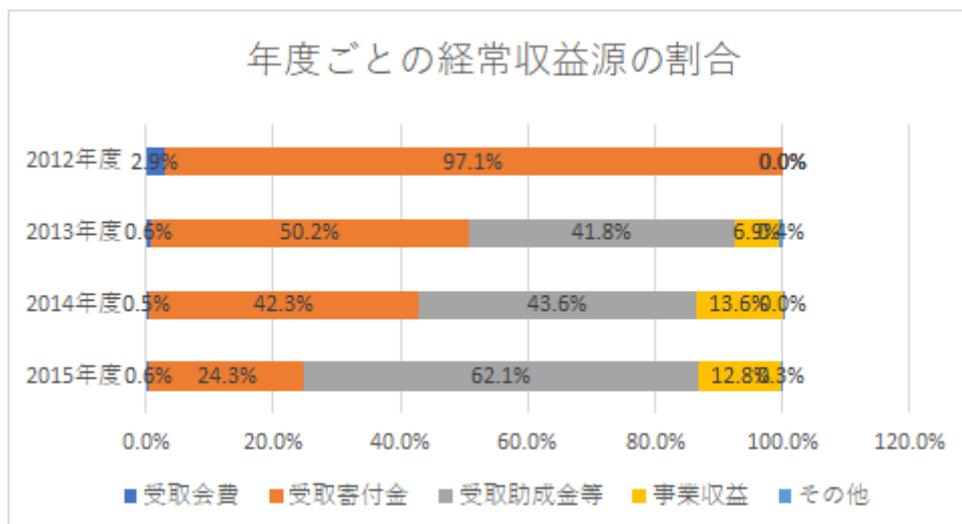


図 4-6 年度ごとの経常収益源の割合（特定非営利活動法人移動支援 Rera）

出典) 各年度の活動計算書をもとに作成

(2) 国等の補助金に依存しない経営（資金調達）についての方針・行動

- 当初は他の団体同様に助成金や補助金で経営していたが、3年目くらいに赤い羽根共同募金による『みやぎチャレンジプロジェクト』の支援団体の一つに選ばれ、寄付キャンペーンを3か月行うとともに、集まった額に応じて赤い羽根から寄付が上乘せされる「マッチング寄付」という仕組みでサポートしてもらったことが大きかった。（2019年の配分額は2,869,915円）

移動困難な方々の暮らしの足を守りたい...
送迎支援活動の継続にご協力をお願いします

高齢や障害など移動が困難な方々のために

- ◆ 通院や買い物の送迎
- ◆ 付添送迎付きのお出かけ企画(お花見、買い物などを行っています。)

走り続けます！
誰もが外出できる街！
誰もが安心して暮らせる街！
を目指して！

目標 150万円

マッチング助成 最大60万円

特定非営利活動法 Rera
〒986-0855
宮城県石巻市大街通東4丁目2-10クレンビル1号館2階
TEL & FAX 0225-98-5667 E-mail : info@npo-rera.org
http://www.npo-rera.org/

令和2年3月31日まで

図 4-7 令和2年度社会課題解決「みやぎチャレンジプロジェクト」助成事業

出典) 令和2年度社会課題解決「みやぎチャレンジプロジェクト」助成事業—NPO法人 移動支援 Rera
<http://akaihane-miyagi.or.jp/challenge/org10>

- また、米国のチズ・ホワイトチャリティから毎年多額の寄付を頂戴している。チズ氏は東北出身で、夫が事業で成功したことから基金を設立して寄付活動を行っている。東北地方で高齢者支援をしている団体を探していたところ、内閣府報告書などで Rera を知り、現在に至るまで寄付活動を継続している。チズ氏により、米国内の寄付者も増えており、口コミ効果も見られる。
- これらを踏まえると、寄付については「質の高い活動」「活動等を伝える」「寄付が集まる仕組み(枠組み)」の3つが重要と思われる。

(3) 最近の活動状況

- 最近は送迎事業などの回数を増やすのではなく、事務局強化をはかるようにしている。中長期を見越しての基盤づくりが重要と考えている。専属で2名をつけてスタッフ研修も実施している。これらにより、村島代表本人が受付や配車にリソースを割かないで済むようになってきている。
- 2019年、2020年の2年間、Reraはトヨタ・モビリティ基金の「地域に合った移動の仕組みづくり」の助成を受けられることになった。(活動名は「被災地復興から持続可能な助け合い送迎への移行を目指した、住民主体の仕組みづくり」。トヨタ・モビリティ基金では1件あたり最大3,000万円の予算がつく。) Reraではほぼ初めての、単年

度ではない（2年連続した）助成金事業となる。

（参考）トヨタ・モビリティ基金¹⁸

人口減少と高齢化に直面する日本において、地域公共交通の縮小による移動困難者の増加が懸念される中、情報技術の活用や、地域の様々な分野（交通、福祉、教育、医療、観光等）で活動する様々なプレイヤー（行政、市民、公共交通事業者をはじめとした企業、NPO など）による連携、さらには複数の地方公共団体の連携といった、新しい発想を取り入れ、イノベティブな移動の仕組みづくりや社会実装を行う地域を助成金により支援するもの。助成事業を通じ、各地の事例や学びを「地域に合った移動の仕組み」 Web サイトにて紹介し、同様の活動を行う方々にとって情報共有の場を提供することを目指している。

助成対象団体：NPO 等の市民団体、地方公共団体、民間企業、各種法人

助成対象事業：地域の移動課題の解決を目指す、以下の内容を含む事業

- (1) 複数の分野のプレイヤーが連携するための体制を形成する
- (2) 対象地域の市民と移動課題を共有する機会（広報活動やワークショップ等）を用意する
- (3) 対象地域において車両を用いた運行を行う
- (4) 本助成対象事業に関する明確な達成目標があり、達成状況の確認を行う
- (5) 本助成期間終了後の維持継続案がある、もしくは維持継続に向けて検討を行う

助成金額：対象となる事業内容を全て含む活動の場合は 300 万円～3,000 万円

選考基準：

- ① 住民の意向に合致した、地域の移動課題の解決に貢献する活動である
- ② 情報技術の活用や、新しい発想や先駆的な概念やスキームを取り入れている
- ③ 地域や全国の他の団体に波及し、モデルとなりうる
- ④ 対象となる事業内容が含まれている

応募用紙：

- ◇ 活動概要には想定される成果・成果物、受益者などを記載。
- ◇ 活動計画（詳細）には、活動の目的、活動で取り組む移動の課題、移動の課題の解決に向けた具体的な活動内容、地域住民と移動課題を共有する方法、助成終了後の維持継続計画などを記載。
- ◇ 達成目標として、実施項目ごとに、目標、達成状況の確認方法、現状、目標値（3 か月後、6 か月後、1 年後、1 年半後、2 年後）を記載。

- 「被災地復興支援」の色の強い Rera の活動は、受けられる助成金や補助金のほとんどが東日本大震災の復興支援のための助成で、1 年間のみというものであった。毎年、採用していただいても 1 年度で終了、翌年のことは誰にも分らない、といった状況でこれまで続けてきた。
- 現在 Rera が受けている「被災地復興」の助成金や補助金“そのもの”が、2020 年度で終了する可能性が高い。震災から 10 年という、いわゆる「復興期間」の終了に合わせ、被災地の NPO 活動には大きな“区切り”が予測されている。
- したがって、運営がなんとかできている 2020 年度が終わるまでに、できる限り持続性の高い運営の形態を作っていきたいと考えている。そのために、「地域に合った移動の

¹⁸ トヨタ・モビリティ基金 募集要項 <http://min-mobi.jp/>

仕組み」づくりを進めている。

- 収入と支出のバランスを少しでも改善させ、助成金や補助金がなくなったり減少したりしても続く方法を模索している。専門家の先生に相談しながら、図 4-8 に示すような Rera の活動の形を見直し、再構築していこうとしている。2019 年度はそのための調査を行う予定になっている。

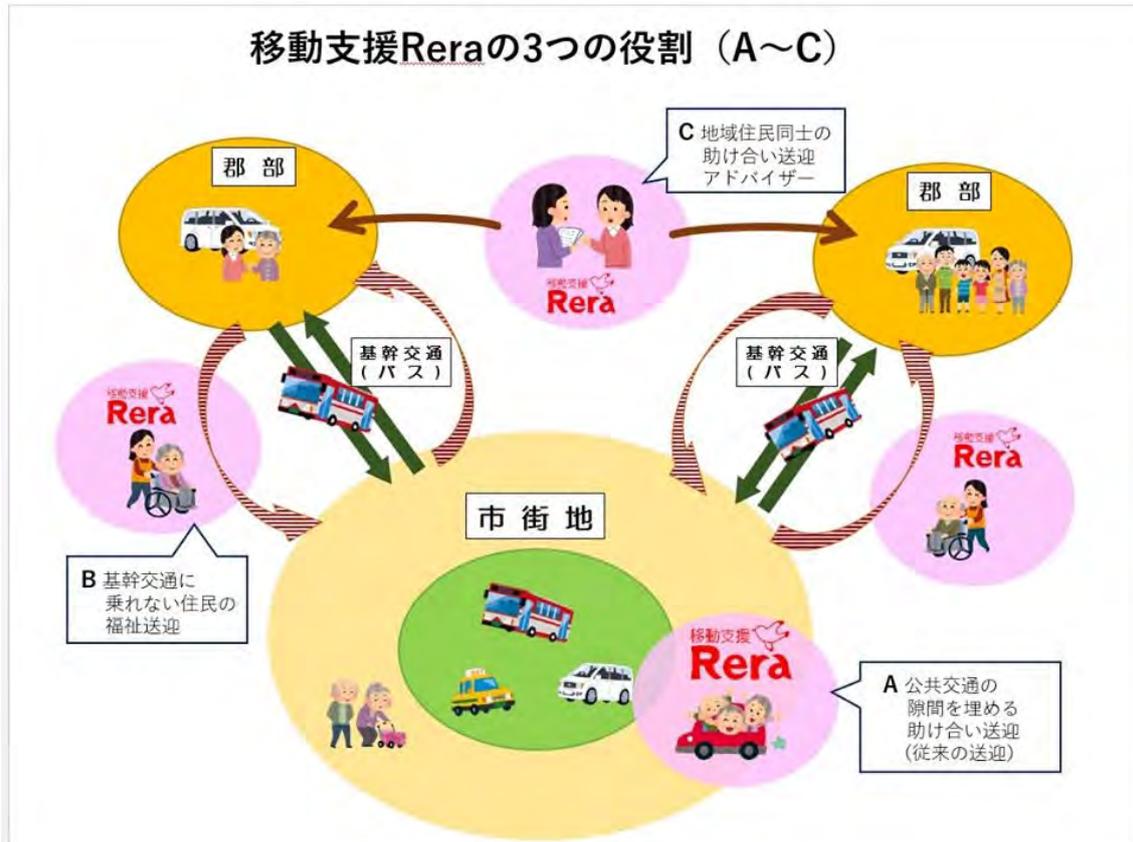


図 4-8 移動支援 Rera の 3 つの役割

出典) 移動支援 Rera facebook (2019 年 10 月 3 日)
<https://www.facebook.com/pg/ishinomaki.rera/posts/>

- 付き添いお出かけ送迎 (月 1 回) は好評で、この前は 36 人で大崎に行ってきた。
- 2017 年 11 月から実施しているミニ生活支援 (庭の草取りや枝払い、電球交換など) も安定的になってきている。
- レラ農園 (生きがい交流ミニ農園。月に数回、希望する利用者を畑に送迎) も利用者の満足度は高く、大根や落花生を育てている。
- 福祉有償運送¹⁹の検討も進めている。山形県に先行事例があり勉強会を開いている。また、採択されたトヨタ・モビリティ基金の事業内で、福祉有償運送の実証実験を行っていく。(図 4-9 参照)

¹⁹ NPO 法人や社会福祉法人などが、障害者や高齢者など一人で公共交通機関を利用することが困難な方を対象に行う、ドア・ツー・ドアの有償移送サービス。

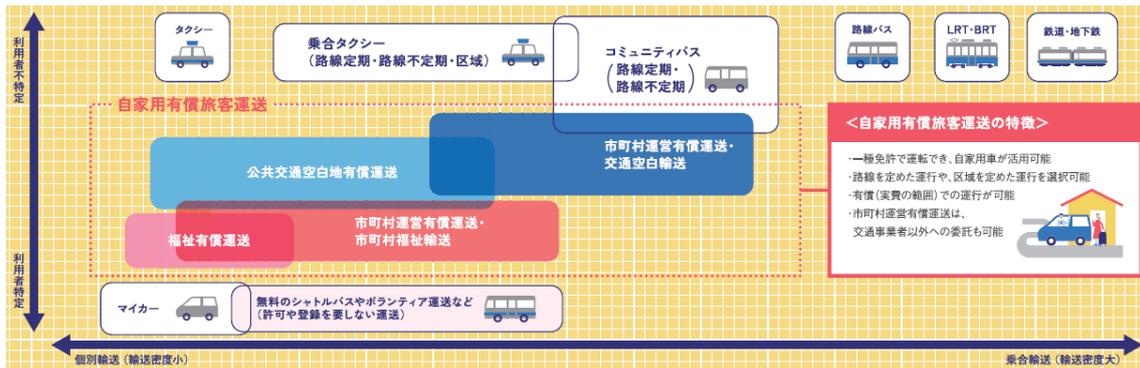


図 4-9 福祉有償運送の位置づけ（利用者特性と輸送密度による分類）

出典)「みんなで作る地域に合った移動の仕組み」～自家用車を活用した「自家用有償旅客運送」導入ガイドブック～ <http://min-mobi.jp/>

- 送迎を行うドライバーの可能性について、プロのドライバー、セミプロのドライバー、ボランティアのニーズをどのように組み合わせるとよいか検討しているところである。
- 人工透析患者の送迎ニーズは相変わらず高く、手持ちの車両（8台）では手に余る状況である。
- 移動について考えるアイデアソンイベントに参加したことがきっかけで企業との連携が深まり、研究会を発足して2回開催した。

表 4-5 2018年度の送迎集計

	合計	月平均	日平均
送迎人数	16,345人	1,362	60
送迎回数	13,368回	1,114	49
スタッフ数	2,194人	183	8.0

出典) 特定非営利活動法人移動支援 Rera 2018年度事業報告書より作成
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/756939.pdf>

(4) 今後の事業活動の方針や方向性

- 今後は、採択されたトヨタ・モビリティ基金の事業内で、福祉有償運送の実証実験を行っていく。一年目の今年はアンケート等の調査をし、来年に実証実験をする予定。
- いわて地域づくり支援センターなど専門家の先生に相談しながら、Reraの全体の枠組みづくりを進める。現在は山下地区の町づくり協議会などでプレゼンしたり、図 4-10に示すような暮らしと交通に関するアンケート調査を実施しているところである。

【用紙① マイカーを持っていない方用】 石巻地域の「暮らしの足」を考える協議会

くらしと交通に関するアンケート調査

私たちは、石巻地域の車やバスなどによる外出が十分に足りているか、改善点があるか、免許返納や将来への不安についてなどを調べて、地域の皆さんや石巻市などと一緒に「より良いお出かけ環境」について考えるために、アンケート調査をおこなっています。みなさまの声をどうか聞かせて下さい。

※アンケートの回答結果については、本調査以外の目的には使用しません。

石巻地域の「暮らしの足」を考える協議会
(移動支援 Rera、日本カーシェアリング協会、まちの乗り合い所うめばだけ、一歩を楽しむ石巻、ウィアーワン北上)
** 当てはまる番号に○を付けてください。「その他」を選んだときは()の中に具体的に書いてください**

1 あなたご自身について

質問1 あなたご自身について、当てはまるものを選んでください。

性別	1. 男性	2. 女性							
年齢	～20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
(主たる)職業	1. 無職	2. 会社員・公務員	3. 自営業	4. その他()					
お住まいの地域	(例: 石巻市大街道、石巻市稚生町 など)								
介護保険の介護度	なし・わからない・要支援(→程度に○ 1 2) 要介護(→程度に○ 1 2 3 4 5)								
障害等級	なし 1 2 3 4 (→障害の種類を記入)								
歩行や体の状態(あてはまるものすべてに○)	1. 杖・歩行器・手押し車を使っている 2. 車いすを使っている 3. 目が不自由 4. 耳が不自由 5. 車の乗り降りに介助が必要 6. 歩くとき痛みや疲労がある 7. 特に問題ない 8. その他()								
同居家族の人数	(自分を含めて) 人								
世帯の構成	1. 単身世帯(ひとり暮らし) 2. 一世代世帯(夫婦のみ) 3. 二世帯世帯(親と子) 4. 三世帯世帯(祖父母と親と子) 5. その他()								
自宅にある乗用車の台数	持っていない・1台・2台・3台以上								

質問2 あなたは、現在自動車の運転免許を持っていますか?

運転免許	1. 持っている	2. 持っていたが、返納した(返納した年齢 歳)	3. 持ったことがない
------	----------	--------------------------	-------------

- 1 -

【用紙② マイカーを持っている方用】 石巻地域の「暮らしの足」を考える協議会

くらしと交通に関するアンケート調査

私たちは、石巻地域の車やバスなどによる外出が十分に足りているか、改善点があるか、免許返納や将来への不安についてなどを調べて、地域の皆さんや石巻市などと一緒に「より良いお出かけ環境」について考えるために、アンケート調査をおこなっています。みなさまの声をどうか聞かせて下さい。

※アンケートの回答結果については、本調査以外の目的には使用しません。

石巻地域の「暮らしの足」を考える協議会
(移動支援 Rera、日本カーシェアリング協会、まちの乗り合い所うめばだけ、一歩を楽しむ石巻、ウィアーワン北上)
** 当てはまる番号に○を付けてください。「その他」を選んだときは()の中に具体的に書いてください**

1 あなたご自身について

質問1 あなたご自身について、当てはまるものを選んでください。

性別	1. 男性	2. 女性							
年齢	～20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
(主たる)職業	1. 無職	2. 会社員・公務員	3. 自営業	4. その他()					
お住まいの地域	(例: 石巻市大街道、石巻市稚生町 など)								
介護保険の介護度	なし・わからない・要支援(→程度に○ 1 2) 要介護(→程度に○ 1 2 3 4 5)								
障害等級	なし 1 2 3 4 (→障害の種類を記入)								
歩行や体の状態(あてはまるものすべてに○)	1. 杖・歩行器・手押し車を使っている 2. 車いすを使っている 3. 目が不自由 4. 耳が不自由 5. 車の乗り降りに介助が必要 6. 歩くとき痛みや疲労がある 7. 特に問題ない 8. その他()								
同居家族の人数	(自分を含めて) 人								
世帯の構成	1. 単身世帯(ひとり暮らし) 2. 一世代世帯(夫婦のみ) 3. 二世帯世帯(親と子) 4. 三世帯世帯(祖父母と親と子) 5. その他()								
自宅にある乗用車の台数	持っていない・1台・2台・3台以上								

- 1 -

図 4-10 暮らしと交通に関するアンケート調査票 (一部抜粋)

出典) 特定非営利活動法人移動支援 Rera 提供資料